

心理学研究科

▶ 専攻履修及びその他についての諸注意（博士前期課程）

用語解説

I 一般的事項

- (1) 専攻履修については、大学院学則、学位規程、研究科規程、その他の規程を熟読の上、開講科目一覧表やシラバス等を参照し、履修科目を決定すること。
- (2) 履修登録、研究指導計画書を所定の方法に従って、指定の期日までに行うこと。履修登録がされていないと、単位修了の認定を受けることができない。

II 研究指導要綱、研究指導計画書

研究指導要綱、研究指導計画書は大学院に在学する学生に対し、予め1年間の研究内容や計画を明示し、指導教員・学生がそれぞれ確認するものです。

学生は、研究指導要綱に基づき、研究指導教員（副指導教員）と面談を行い、研究指導教員の助言・指導の基、研究指導計画書を作成し、各学年の期首（4月）に教務課に提出すること。

なお、研究指導については、日頃より研究指導教員の指導・助言を受け、課題の確認を怠らずに行い、期末（2月）に、改めて、研究指導教員と期末面談を行い、研究指導の確認・検証の基、その内容を研究指導計画書に認め、教務課に提出すること。

III 履修及び単位修得

- (1) 履修及び単位修得については以下の通りである。

心理学研究科心理学専攻にあつては、臨床心理学コース、生涯発達・生涯教育心理学コース及び社会・環境・犯罪心理学コースの3コースがあり、原則としてコースの変更は認めないが、入学後、臨床心理学コースから生涯発達・生涯教育心理学コースまたは社会・環境・犯罪心理学コースへの変更に関しては認める場合がある。

単位修得については、臨床心理学コースは必修、選択必修及び選択を含めて、開講科目表の履修区分に従って、合計30単位以上を修得しなければならない。生涯発達・生涯教育心理学コースと社会・環境・犯罪心理学コースは演習及び実習6単位以上、講義24単位以上、合計30単位以上を修得しなければならない。各コースの開講科目は、必修科目、選択必修科目、選択科目にわかれ、それぞれの専攻生は、当該コースの指定にしたがって修得すること。また開講科目には、学年指定、履修制限があるので、開講科目表を参照し、所定の方法により単位を修得しなければならない。なお、単位を修得した科目に対しては、再度履修しても単位を与えない。

所属コース以外のコースの特論科目については、8単位を上限として履修を認める。ただし、これらの科目については、取得単位を修了単位としては認定しない。

- (2) 学業成績は、100点満点で60点以上を合格とする。

IV 修士論文

- (1) 修士論文計画書(2,000字以内)は、論文提出の6ヶ月前までに教務課へ提出しなければならない。
- (2) 修士論文を提出するものは、論文3部(2部はコピーでもよい)を提出期限(1月14日あるいは6月30日。ただし、本学の休業日に当たる場合は翌日)までに教務課に

- 提出しなければならない。なお、期日に遅れたものは受理しない。
- (3) 修士論文は次の事項を基準として、厳格に審査する。
- ① 研究テーマが独創的でありその設定が妥当なものであるか。そのテーマについて問題意識を的確に把握しているか。
 - ② 設定した研究テーマに合致した方法論、調査・実験方法あるいは論証方法を選択しており、それに即した資料の取り扱いが適切であり、具体的な分析・考察がなされているか。
 - ③ 心理学研究における倫理規定は遵守されているか。
 - ④ 論旨の展開が明確かつ一貫しており、論文構成が体系的になされているか。
 - ⑤ 論文の記述（本文、図、表、引用、文献表など）が十分かつ適切であるか。
 - ⑥ 先行研究との関連の位置づけが妥当であるか。
- (4) 修士論文は、20,000字以上とする。
- (5) 論文の審査は口頭試問とし、3名の教員が担当する。（臨床心理学コースにおいては1名は臨床心理士資格保持者であること）
- (6) 病気その他やむをえない事情により修士論文を期日までに提出できないものは、その理由を証する書面を添えて1月14日までに研究科長に願い出た場合に限り、延期を許可することがある。
- (7) 修士論文の審査に不合格の場合、あるいは提出しなかった場合には、次年度の前期に提出することができる。この場合には、6月30日までに修士論文を教務課に提出しなければいけない。
- ただし、病気その他やむをえない事情により修士論文を期日までに提出できないものは、その理由を証する書面を添えて研究科長に願い出た場合に限り、延期を許可することがある。

V その他

- (1) 教務課において発行する以下の証明書の交付を希望する者は、あらかじめ交付願（所定の様式は教務課にて交付）を提出すること。
- i) 単位修得及び学業成績証明書
 - ii) 修了見込証明書
 - iii) 修了証明書
 - iv) 在学証明書
- (2) その他資格取得及び学生生活一般のことについては「資格取得に関する事項、その他の規則・規程」を参照のこと。なお、その他は研究科委員会で決定し、必要と認めた場合はその都度掲示等によって連絡する。

▶ 専攻履修及びその他についての諸注意（博士後期課程）

I 一般的事項

- (1) 専攻履修については、大学院学則、学位規程、研究科規程、その他の規程を熟読の上、開講科目一覧表やシラバス、履修モデル等を参照し、履修科目を決定すること。
- (2) 履修登録、研究指導計画書を所定の方法に従って、指定の期日までに行うこと。履修登録がされていないと、単位修了の認定を受けることができない。

II 研究指導要綱、研究指導計画書

研究指導要綱、研究指導計画書は大学院に在学する学生に対し、予め1年間の研究内容や計画を明示し、指導教員・学生がそれぞれ確認するものです。

学生は、研究指導要綱に基づき、研究指導教員（副指導教員）と面談を行い、研究指導教員の助言・指導の基、研究指導計画書を作成し、各学年の期首（4月）に教務課に提出すること。

なお、研究指導については、日頃より研究指導教員の指導・助言を受け、課題の確認を怠らず行い、期末(2月)に、改めて、研究指導教員と期末面談を行い、研究指導の確認・検証の基、その内容を研究指導計画書に認め、教務課に提出すること。

Ⅲ 単位修得

- (1) 特別研究科目 8 単位以上と特別演習科目 12 単位以上、合計 20 単位以上を修得しなければならない。
- (2) 博士論文を提出し、最終試験に合格しなければならない。
また、毎年度に研究科によって開催される「博士中間報告会」において口頭による研究報告を行うとともに、毎年度末に「研究成果報告書」を提出しなければならないこととする。
- (3) 学業成績は、100 点満点で 60 点以上を合格とする。

Ⅳ 博士論文

- (1) 博士論文計画書は、論文提出の 1 年前までに教務課を經由して指導教授に提出し、承認を得なければならない。
- (2) 博士論文を提出する者は、論文 3 部、論文要旨 3 部、履歴書 3 部、研究業績一覧表 3 部、単位修得証明書 1 部を提出期限までに教務課に提出しなければならない。
- (3) 学位論文の提出のためには、特別研究科目 2 科目以上ならびに特別演習科目Ⅰ・Ⅱを修得し、特別演習科目Ⅲを履修または修得していなければならない。
- (4) 提出予定の学位論文について予備審査を行い、提出可と判断された後、本審査のための最終稿を提出することとする。
- (5) 博士論文の審査については、ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の項目について総合的に評価する。
 - 1) 学位論文の内容に新規性が認められ、当該分野の発展に貢献できる内容を含むこと。
 - 2) 研究目的が明確で、研究方法と分析が適切であること。
 - 3) 論文の構成が的確であり、論理的に一貫した考察がなされていること。
 - 4) 当該テーマに関する国内外の先行研究を適切に検討し、当該分野の研究動向の中に適切に位置づけていること。
 - 5) 論旨の展開が十分理解しやすく、順序立てて明瞭に記述されていること。
 - 6) 研究倫理について十分理解し、それを遵守していること。
 - 7) 公聴会での論文内容の発表と質疑に対する応答が論理的かつ明確に行われたこと。

▶ 開講科目一覧表（2022年度）

別表Ⅰ 心理学専攻（博士前期課程）

【臨床心理学コース】 臨床心理士受験資格に関する指定科目

履修区分	授業科目	単位	配当年次	備考	
必修	臨床心理学特論 1	2	1年次以上	臨床心理学コース専攻生のみ	
	臨床心理学特論 2	2	同	臨床心理学コース専攻生のみ	
	臨床心理面接特論 1 (心理支援に関する理論と実践)	2	同	臨床心理学コース専攻生のみ	
	臨床心理面接特論 2	2	同	臨床心理学コース専攻生のみ	
	臨床心理アセスメント演習 1 (心理的アセスメントに関する理論と実践)	2	同	臨床心理学コース専攻生のみ	
	臨床心理アセスメント演習 2	2	同	臨床心理学コース専攻生のみ	
	臨床心理基礎実習	2	1年次以上	2 時限連続開講 臨床心理学コース専攻生のみ	
	臨床心理実習 1 (心理実践実習)	1	2年次以上	2 時限連続開講 臨床心理学コース専攻生のみ	
	臨床心理実習 2	1	同	2 時限連続開講 臨床心理学コース専攻生のみ	
選択必修	A	臨床心理学研究法特論 1	2	1年次以上	臨床心理学コース専攻生のみ
		臨床心理学研究法特論 2	2	同	臨床心理学コース専攻生のみ
		心理統計法特論	2	同	
	B	認知心理学特論	2	同	
		言語発達支援論	2	同	
		発達進化特論	2	同	
	C	社会心理学特論	2	同	
		犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	2	同	
		精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	2	同	
	D	神経生理学特論	2	同	
		障害者（児）心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	2	同	
	E	投映法特論	2	同	臨床心理学コース専攻生のみ
		心理療法特論 1	2	同	臨床心理学コース専攻生のみ
心理療法特論 2		2	同	臨床心理学コース専攻生のみ	
履修区分	授業科目	単位	配当年次	備考	
選択必修	臨床心理アセスメント実習Ⅰ 1 (心理実践実習)	1	1年次以上		
	臨床心理アセスメント実習Ⅰ 2 (心理実践実習)	1	同		
	臨床心理アセスメント実習Ⅱ 1 (心理実践実習)	1	2年次以上		
	臨床心理アセスメント実習Ⅱ 2 (心理実践実習)	1	同		
	臨床心理実践基礎実習 (心理実践実習)	1	1年次以上		
	臨床心理実践応用実習 (心理実践実習)	1	2年次以上		
	臨床心理学コース演習 1	1	同	(修士論文指導) 臨床心理学コース専攻生のみ	
	臨床心理学コース演習 2	1	同	(修士論文指導) 臨床心理学コース専攻生のみ	
上記のA～Eの科目群から、それぞれ2単位以上、計10単位以上を修得し、選択必修の区分から計14単位以上を修得すること。					

履修区分	授業科目	単位	配当年次	備考
選択	臨床心理学外短期実習 (心理実践実習)	1	1年次以上	
	臨床心理地域援助特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	2	同	
	学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	2	同	
	産業心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	2	同	
	ガイダンス特論 (心の健康教育に関する理論と実践)	2	同	
	学校カウンセリング特論 (心理支援に関する理論と実践)	2	同	
	社会認知神経科学特論	2	同	
	上級集団力学演習	2	同	
	上級対人行動学演習	2	同	
上記の必修科目、選択必修科目および選択科目を含めて、合計 30 単位以上を修得すること。				

【臨床心理士受験資格】

- (1) 臨床心理学コースで修士課程を修了した者
 - (2) 上記の指定科目の修得要件を充たしていること
 - (3) 臨床心理学に関連したテーマと内容の修士論文を提出していること
- 以上の全ての要件を充たしていなければならない。

【生涯発達・生涯教育心理学コース】

履修区分	授業科目	単位	配当年次	備考
必修	生涯発達・生涯教育心理学研究演習	1	1年次以上	
	生涯発達・生涯教育心理学コース演習1	1	2年次以上	(修士論文指導)
	生涯発達・生涯教育心理学コース演習2	1	同	(修士論文指導)
選択必修	記憶と言語	2	1年次以上	
	認知心理学特論	2	同	
	臨床発達心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	2	同	
	神経生理学特論	2	同	
	発達進化特論	2	同	
	言語発達特論	2	同	
	言語発達支援論	2	同	
	臨床発達支援特論	2	同	
	社会認知神経科学特論	2	同	
	教育心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	2	同	
	学校心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	2	同	
	ガイダンス特論 (心の健康教育に関する理論と実践)	2	同	
	学校カウンセリング特論 (心理支援に関する理論と実践)	2	同	
	カウンセリング技法演習 (心理支援に関する理論と実践)	2	同	
	生涯教育心理学演習	2	同	
	生涯発達心理学演習	2	同	
	社会認知神経科学演習	2	同	
	発達教育アセスメント演習1 (心理的アセスメントに関する理論と実践)	2	同	
	発達教育アセスメント演習2 (心理的アセスメントに関する理論と実践)	2	同	
	発達教育心理実践実習Ⅰ1 (心理実践実習)	1	同	
	発達教育心理実践実習Ⅰ2 (心理実践実習)	1	同	
	発達教育心理実践実習Ⅱ1 (心理実践実習)	1	2年次	
	発達教育心理実践実習Ⅱ2 (心理実践実習)	1	同	
以上の科目から、16単位以上を修得すること。				

履修区分	授業科目	単位	配当年次	備考
選択	臨床心理学外短期実習 (心理実践実習)	1	1年次以上	
	精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	2	同	
	障害者(児)心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	2	同	
	学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	2	同	
	社会心理学特論	2	同	
	環境心理学特論	2	同	
	犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	2	同	
	対人行動学特論	2	同	
	産業心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	2	同	
	臨床心理地域援助特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	2	同	
	心理統計法特論	2	同	
	集団力学特論	2	同	
	上記の必修科目、選択必修科目および選択科目を含めて、講義 24 単位以上、演習 6 単位以上、合計 30 単位以上を修得すること。			

【社会・環境・犯罪心理学コース】

履修区分	授業科目	単位	配当年次	備考	
必修	社会・環境・犯罪心理学コース演習Ⅰ	2	1年次		
	社会・環境・犯罪心理学コース演習Ⅱ	2	2年次	(修士論文指導)	
選択必修	社会心理学特論	2	1年次以上		
	環境心理学特論	2	同		
	犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	2	同		
	対人行動学特論	2	同		
	産業心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	2	同		
	臨床心理地域援助特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	2	同		
	心理統計法特論	2	同		
	集団力学特論	2	同		
	以上の講義科目から、4科目8単位以上を修得すること。				
		上級社会心理学演習	2	同	
		上級環境心理学演習	2	同	
		上級犯罪心理学演習	2	同	
		上級対人行動学演習	2	同	
		上級集団力学演習	2	同	
以上の演習科目から、1科目2単位以上を修得すること。					

履修区分	授業科目	単位	配当年次	備考
選択	精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	2	1年次以上	
	障害者(児)心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	2	同	
	記憶と言語	2	同	
	認知心理学特論	2	同	
	臨床発達心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	2	同	
	神経生理学特論	2	同	
	発達進化特論	2	同	
	言語発達特論	2	同	
	言語発達支援論	2	同	
	臨床発達支援特論	2	同	
	社会認知神経科学特論	2	同	
	教育心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	2	同	
	学校心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	2	同	
	学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	2	同	
	ガイダンス特論 (心の健康教育に関する理論と実践)	2	同	
	学校カウンセリング特論 (心理支援に関する理論と実践)	2	同	
	カウンセリング技法演習 (心理支援に関する理論と実践)	2	同	
	生涯教育心理学演習	2	同	
	生涯発達心理学演習	2	同	
	発達教育アセスメント演習1 (心理的アセスメントに関する理論と実践)	2	同	
	発達教育アセスメント演習2 (心理的アセスメントに関する理論と実践)	2	同	
	発達教育心理実践実習Ⅰ1 (心理実践実習)	1	同	
	発達教育心理実践実習Ⅰ2 (心理実践実習)	1	同	
発達教育心理実践実習Ⅱ1 (心理実践実習)	1	2年次		
発達教育心理実践実習Ⅱ2 (心理実践実習)	1	同		
臨床心理学外短期実習 (心理実践実習)	1	1年次以上		

上記の必修科目、選択必修科目および選択科目を含めて、講義 24 単位以上、演習 6 単位以上、合計 30 単位以上を修得すること。

▶ 公認心理師受験資格に関する指定科目（大学院）

	公認心理師受験資格として必要となる領域	本学の開講科目名称	単 位	履修可能コース
①	保健医療分野に関する理論と支援の展開	精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	2	全コース共有科目
②	福祉分野に関する理論と支援の展開	障害者（児）心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	2	
		臨床発達心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	2	
③	教育分野に関する理論と支援の展開	学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	2	全コース共有科目
		教育心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	2	
		学校心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	2	
④	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	2	全コース共有科目
⑤	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	産業心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	2	全コース共有科目
⑥	心理的アセスメントに関する理論と実践	臨床心理アセスメント演習1 (心理的アセスメントに関する理論と実践)	2	
		発達教育アセスメント演習1 (心理的アセスメントに関する理論と実践)	2	
		発達教育アセスメント演習2 (心理的アセスメントに関する理論と実践)	2	
⑦	心理支援に関する理論と実践	臨床心理面接特論1 (心理支援に関する理論と実践)	2	
		学校カウンセリング特論 (心理支援に関する理論と実践)	2	全コース共有科目
		カウンセリング技法演習 (心理支援に関する理論と実践)	2	
⑧	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	臨床心理地域援助特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	2	全コース共有科目
⑨	心の健康教育に関する理論と実践	ガイダンス特論 (心の健康教育に関する理論と実践)	2	全コース共有科目
⑩	心理実践実習	臨床心理実践基礎実習（心理実践実習）	1	
		臨床心理アセスメント実習Ⅰ1 (心理実践実習)	1	
		臨床心理学外短期実習（心理実践実習）	1	全コース共有科目
		臨床心理アセスメント実習Ⅰ2 (心理実践実習)	1	
		臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）	1	
		臨床心理アセスメント実習Ⅱ1 (心理実践実習)	1	
		臨床心理実践応用実習（心理実践実習）	1	
		臨床心理アセスメント実習Ⅱ2 (心理実践実習)	1	
		発達教育心理実践実習Ⅰ1（心理実践実習）	1	
		発達教育心理実践実習Ⅰ2（心理実践実習）	1	
		発達教育心理実践実習Ⅱ1（心理実践実習）	1	
		発達教育心理実践実習Ⅱ2（心理実践実習）	1	

※「全コース共有科目」と記載の無い科目については、各コース毎の開講科目表で、自身の所属コースではどの科目が開講されるかを確認すること

▶ 臨床発達心理士受験資格に関する指定科目

「臨床発達心理士」認定運営機構指定科目 及び単位数		本学開講科目及び単位数	
臨床発達心理学の基礎に関する科目	4	臨床発達心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2
		生涯発達心理学演習	2
臨床発達支援の専門性に関する科目	4	発達進化特論	2
		臨床発達支援特論	2
言語発達とその支援に関する科目	4	言語発達特論	2
		言語発達支援論	2

- (1) 本学心理学研究科博士前期課程心理学専攻生涯発達・生涯教育心理学コース又は社会・環境・犯罪心理学コースを修了していること
- (2) 全ての指定科目（1科目4単位）の単位を修得していること
- (3) 200時間以上の臨床実習の経験を有すること

▶ 学校心理士受験資格 類型1

「学校心理士」認定運営機構において定めた科目		対応する本学科目		単位数
コアとなる学問領域	学校心理士とそれを支える心理学的基盤	学校心理学	学校心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	2
		教授・学習心理学	教育心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	2
		発達心理学	臨床発達心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2
			言語発達特論	2
臨床心理学	学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	2		
	実務の領域	学校心理学的援助の実際	特別支援教育	障害者（児）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）
生徒指導・教育相談、キャリア教育			ガイダンス特論（心の健康教育に関する理論と実践）	2
援助スキル領域	心理教育的援助サービスの理論と技法	心理教育的アセスメント（実習を含む）	発達教育アセスメント演習1（心理的アセスメントに関する理論と実践）	2
		学校カウンセリング・コンサルテーション（実習を含む）	学校カウンセリング特論（心理支援に関する理論と実践）	2

- (1) 本学大学院博士前期課程を修了していること
- (2) 学校心理学に関する所定9科目18単位以上を修得していること